

石川県七尾美術館だより

平成17年1月4日発行
編集・発行 石川県七尾美術館

第40号(冬号)



ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM



「石川の工芸作家たち
～日展・伝統工芸展を中心に～」より

「翔」

三谷吾一 大正8年～(1919～)
第26回日展(1994)
縦 111.5 横 145.5 (cm)
石川県輪島漆芸美術館所蔵

展覧会紹介

平成17年1月4日(火)

4月10日(日)

休館日については裏表紙をご覧ください

「石川の工芸作家たち

「日展・伝統工芸展を中心に」

2月26日(土)～4月10日(日)

◆第一・第二展示室

本展は石川の工芸界を代表する近現代の作家作品を陶磁・漆工・染色・金工・木工の分野にわたり展示し、石川の工芸の今を紹介するものです。



美術工芸は伝統という言葉と深い繋がりがありません。それ故に、伝統に古いと受け取られがちですが、伝統とはその本質を保ちながら歴史の中で新たに蓄積され、常に新しい一面が加えられてゆくものです。そのため、携わる作家には習熟された技法、そして伝統に裏付けされた創作活動が求められ、技とデザインのバランスが重要視されます。

県内各地域には、今日でも多くの伝統工芸が育まれており、石川は日本を代表する工芸王国として全国的に知られています。このような美術工芸の繁栄は江戸時代における加賀藩前田家の文化施策によって発展した、多彩な伝統に負うところが大きいと言えるでしょう。

大正から昭和の前期にかけての工芸活動は、明治以降の地場産業を背景にしながらも、殖産興業



「沈金猫文けはひ飾盃」
前 大峰

石川県立輪島漆芸技術研修所蔵



「あやめ訪問服」 木村雨山
金沢卯辰山工芸工房所蔵

的な状況から「美術工芸への転換期」を迎えます。すでに明治二十年頃には東京美術学校や金沢工業学校(現石川県立工業高校)などの教育機関が設立されたこともあり、次第に工芸職人の間にも作家意識が芽生え、鑑賞を目的とする工芸作品の制作が行われるようになりました。作家個人の目指すものは各々に異なりますが、全ての工芸作家に共通するのは、工芸素材(土・漆・染料・金属・木など)の性質をよく理解し、その特性を生かして自身の思いを表現することにあります。

戦後は工芸活動の中心であった日展の工芸が、時代に合わせた造形美術へと進んで行くに従い、伝統的な技術と「用の美」を守り継ごうとする人びとによって、日本伝統工芸展を主催する日本工芸会が設立されました。以来、石川の工芸界は、この二団体が中心となり活動されています。



日展工芸部門を活躍の舞台とする日本芸術院会員は現在七人、このうちの二人が県内在住作家であり、一方、日本伝統工芸展で活躍する県内の重要無形文化財保持者(人間国宝)は、昨年七月に「彫金」の認定を受けた中川衛氏を含め過去最多の八人、工芸の分野においては東京を抜き、京都

に次ぐ全国二位となりました。こうした見事な活躍の背景には、工芸を芸術へと高めた先達の歩みがあります。

今回は日本芸術院会員ならびに人間国宝から次代を担う若手工芸作家まで、石川を代表する近現代の作家作品を展示し、石川の工芸がどのように今日へ受け継がれ、明日へと繋がっているのかを、四十点余りの作品を通して紹介します。



「釉裏金彩大山蓮花文鉢」 吉田美統
石川県立美術館所蔵

※会期中の映画上映会は、松田権六と寺井直次の制作過程を紹介する映画を上映します。詳しくは4ページをご覧ください。

【主な出品予定作家】

《陶磁》二代浅蔵五十吉・十代大樋長左衛門・吉田美統・三代徳田八十吉《漆芸》松田権六・寺井直次・大場松魚・井波唯志・前大峰・三谷吾一・前史雄・塩多慶四郎
《金工》初代魚住為榮・三代魚住為榮・隅谷正峯・中川衛
《木工芸》氷見晃堂・川北良造 《染色》 木村雨山

◇観覧料

一般	個人	団体
500円	400円	
大高生	3500円	3000円

※中学生以下無料、団体は二十名以上です。

「冬季・所蔵品展」

2月20日(日) まで開催中!

◆第一・第二展示室

現在当館では「冬季・所蔵品展」を開催しています。本展は「池田コレクション・織部の意匠」及び「現代絵画・風景を楽しむ」の二テーマで、一部特別展示を含めて計六十一点を展示していますが、今回はその内二点の作品を紹介いたします。

テーマ①「池田コレクション・織部の意匠」より ◆「織部南蛮人燭台」(一六〇一七世紀制作)

幅二二センチ、奥行一一センチ、高さ三二センチ

織部焼で大きな特徴になっているのが「南蛮文化」の影響です。戦国時代、初めて日本にやって来た南蛮人(ポルトガル、イスパニア人)が鉄砲やキリスト教を伝えたのは有名な話ですが、その他にも多くの文物をもたらしました。これらの文化を「南蛮文化」と総称していますが、この南蛮人の様々な意匠を拝借して作品に取り込んだのが織部焼でした。この作品は南蛮人の姿をそのままそっくりロウソク立てにしたものです。



帽子に針がついて
います。ここにロウソク
を立てて使います。

をす。には
イます。は
ネし。日本
クタイ。い
ネし。日
当。時
全。不
で。な
で。い
つ。珍
よ。と

怖い顔。当時の
日本人にはこの
様に見えたの
でしょうか?

引き出しが
付いていま
す。ロウソク
のカスを
捨てるゴミ
入れだとい
われます。

テーマ②「現代絵画・風景を楽しむ」より ◆「マテララの展望」(田辺栄次郎作)

縦八九・五センチ、横一一五センチ

田辺栄次郎(一九一〇〜一九八)は石川県能登地方の押水町出身の洋画家です。二紀展や一陽展などで活躍、ヨーロッパなどへも度々写生旅行に出かけ、「人間の生のいとみなや歴史が感じられる所を描きたい」と各地の風景を描き続けました。この作品は平成六年(一九九四)制作で、描かれているのは南イタリアの都市マテララの町なみです。古びた家々が立ち並ぶ静かな光景からは、永遠の歴史や人々のぬくもりがひしひしと感じられます。



十字架が見えます。
ここはサンタ・マリア・
デ・イドリス教会という
洞窟教会です。

洞窟に見える側に見え
るサッシ(洞窟住居)です。
マテララはサッシの町と
して有名です。

所々に見える緑が、
画面に落ち着きとやす
らぎを与えています。

やさしい色使いです。
南イタリアのあたたかな
日差しを感じさせます。

◇観覧料

一 般	個人	団体
2800円	3500円	2800円
2800円		2200円

※中学生以下無料、団体は二十名以上です。

参加者大募集!
美術品取扱い講座Ⅱ「軸」編Ⅱ

家には床の間があつて、掛け軸も掛かっているんだけど「こんな風でいいのかな?」、今までは自己流だったけど「こんな扱い方でいいのかな?」など疑問をお持ちの方におすすめの『美術品取り扱い講座』です。所蔵品の掛け軸を真近で見ながら、当館学芸員がわかりやすく軸の扱い方とその魅力をお話しします。

日時:平成17年1月30日(日)

午後2時〜(1時間30分程度)

場所:第3展示室特設会場

募集:平成17年1月4日(火)より電話にて申込み受けをします。

七尾美術館 ☎0767(53) 1500

対象:どなたでも参加できます。

参加費:2800円(冬季・所蔵品展観覧料)

※友の会会員以外の方は3500円

持ち物:実際に取り扱う掛け軸をご持参下さい。

(ご持参できない場合は事前にご相談下さい)

定員:15名(定員に達し次第締切)

内容:軸の扱い方について、まずビデオで事前学習し、実際に軸を開いてその扱い方を学びます。その後、現在開催中の『冬季・所蔵品展』を鑑賞します。

どうぞお気軽にご参加ください!

市民ギャラリー 展覧会案内

第9回 洋画展NOTO

3月23日(水)～27日(日)
但し、初日は午前9時から

最終日は午後4時まで

NOTO展も9年目を迎えました。前途有望な若い世代の参加がみられ充実した内容と意欲一杯です。本年度も12名全力投球で頑張ります。乞御期待。

入場料 無料

主催 洋画展NOTO

後援 北國新聞社・七尾美術作家協会・七尾市教育委員会

連絡先

☎0767(53)0207
大地 統

アートホール催し物案内

ト部啓子門下生ピアノ発表会

3月20日(日)

開場 午後12時30分

開演 午後1時

ピアノのソロ、家族との連弾やハンドベル、合唱があります。楽しみながらがんばって練習をしました。皆さん聞きに来て下さい。

入場料 無料

主催 ト部啓子ピアノ教室

後援 平田ピアノチューニングセンター

連絡先 ト部 啓子

☎0767(68)6235

「長谷川等伯展」国宝・松林図屏風」開催記念写真コンテスト作品募集

一、趣 旨

七尾出身で桃山時代に活躍した画家、長谷川等伯の代表作である国宝「松林図屏風」の展示を記念し、現在の能登の松林を中心とした風景を撮影した写真展覧会を開催し、入選作品を来館者の方々に紹介します。

二、応募作品

カラー又は白黒プリント全紙サイズ(枠張又は額装)に限る。※ガラス・アクリル張りはない。

三、応募規定

- ◎応募料は無料です。
- ◎能登の松林が被写体に含まれていること。
- ◎応募作品は展示終了後返却いたします。(返送を希望の場合、費用は出品者負担となります。)
- ◎応募作品一点につき、作品の裏面に画題、氏名、住所、撮影場所等必要事項を記入した応募票を貼付して下さい。(応募票をご希望の

場合はお問い合わせいただくか、当館ホームページからもダウンロードできます)

◎応募点数の制限はありません。

◎作品は未発表であって、他に発表予定のないものに限りませう。他のコンテスト等への二重応募又はその類似の作品であると審査員が認められた場合は、入賞後でも取り消しになります。

◎単写真のみ。(組写真、合成写真は不可)

◎被写体に人物が入る場合、肖像権侵害等の責任は負いかねます。応募に際しては、必ず本人(被写体)の承諾を得てください。

◎入賞作品の著作権は、展示終了までは主催者側に帰属するものとします。

◎入賞は一人一賞とします。

四、作品送付先及びお問い合わせ先
石川県七尾美術館

五、応募期間

平成17年3月17日～3月31日(当日消印有効)

六、審 査 主催者側で行う。

七、各賞及び賞金
最高賞一点・賞金五万円十副賞
優秀賞二点・賞金三万円十副賞
佳作五点・賞金一万円十副賞

八、審査発表

平成17年4月中旬に、新聞・石川県七尾美術館ホームページ内等で発表するとともに、事務局より直接ご連絡いたします。

九、作品展示

「長谷川等伯展」国宝・松林図屏風」開催期間中(平成17年4月25日～5月8日)、当館にて展示及び他に展示予定あり。

十、主 催
七尾市、七尾市教育委員会、財団法人七尾美術館

当館主催の催し

◇映画上映会【入場無料】アートホール

毎月第2・4土曜日 午後2時～

・1月8日・22日、2月12日

「彫漆 音丸耕堂のわざ」(30分)

・2月26日・3月12日

「蒔絵 松田権六のわざ」(31分)

・3月26日・4月9日

「蒔絵 寺井直次のわざ」(30分)

十月二十九日(金)にボランティアさん・職員合わせて二十三名の参加でボランティア監視員研修旅行に行ってきました。代表してお二人の方に感想を書いていただきました。

浦 寿美子

今回の研修先は「金沢21世紀美術館」。「大野からくり記念館」「石川県庁」でした。朝から快晴、午前八時出発。年一回の研修旅行に参加させて頂くのは三度目ですが、年々待ち遠しい程楽しみになってきました。(いつかはイタリアという日が来ないかな...) 幅広い年代の方と親しく語り合う機会を持てることは、とても貴重で楽しいことです。

現代アートの印象は強烈ですよね。入口の緑の芝生にきのこのようにニョキニョキと生える巨大なラッパ。音を送ると、どこかに繋がるようです。タマムシを集めて作った緑に輝くドレス。ピンクのハート型をバックに蝶を散らした作品。この作家デミアン・ハーストは一九九〇年に牛の頭をそのままアクリルケースに入れて展示した作家だそうで、その恐ろしさと名前を忘れられなくなった一人でした。また本展のための作品で地球大異変を扱った「二〇一二年」も、驚きとともに考えさせられるものでした。伝統を超えて新しさを創造する、問題提起をしようとするエネルギーを強く感じました。当時は革新的と言われたという、モネやピカソの作品の部屋に入るとホッとしてみましました。

「大野からくり記念館」ではSさんが、茶運び人形からお茶のサービスを受けることができました。ぜんまいでカタカタ動く人形の可愛いこと。

それにしても皆さんといただいた加賀御膳のきれいでおいしかったこと！ありがとうございました。



金沢21世紀美術館にて

終わってから、どれが一番心に響いたのかよくわかりませんでした。今迄の美術館とは全く違います。参加できる作品のある所が一番違う点かなと思います。気軽に楽しめる、それが『21世紀の出会い―共鳴、ここから』というテーマに合っているのでしょうか。頭と足が痛くなった所でお昼時間となり、おいしい「秋の味覚御膳」で目と舌を喜ばせました。「大野からくり記念館」では昔の人の頭の良さにびっくり。茶運び人形の愛らしい顔が良かったです。

ボランティアの部屋へようこそ！ Vol.4

隆 文子

「金沢21世紀美術館」は九日に開館したばかり。今迄にない斬新な美術館とのこと。新聞に紹介されている記事を読み、自分の目で実際に見てみたいと思っていたので、望みがかない嬉しい気持ちで一杯でした。大きな円形の総ガラス張りの白い建物で緑の芝生の中にドンとあり、朝陽に映えてとても綺麗です。フワフワした芝生を踏み、記念撮影をして開館を待ちました。職員の方に説明を受けて早速入館しました。まず、よくニュースで目にした不思議なプールがありました。そして人の流れに押されるように次から次へと↓印に従って展示室をまわります。案内書片手に壁につけられているプレートを見ても頭の中に記録する間もなく進みます。ひたすら、展示品の大きさ、展示方法、たくさんの展示品に圧倒され、びっくりしつつ見学しました。見

2004 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展 子どもワークショップ報告

当館では一九九八年から毎年ボローニャ展を開催しています。その翌年から毎年継続しているワークショップ「かんたん絵本を作ろうよ！」は展覧会同様、毎年多くのリピーターの方で賑わいます。今年も会期中の毎週土日計十回実施し、県内各地や富山、福井県などから、子ども八十六人、大人五十四人も参加がありました。

参加者は材料となる使用済みポスターやカレンダーを持ち寄り、ハページの冊子を作って物語を考えペー지를飾り付けました。用紙の大きさが様々なので、絵本のサイズも形も異なる一冊となりました。なかには、昨年作った絵本を持参し「第二弾を作るんだ!!」と話してくれたお友達や、「帰って弟に見せてあげるよ」という小学生の男の子もいました。また、絵本作りで力を使い果たしてしまい、展示室ではお母さんの背中を眠っていた女の子もいました。未就学のお子様には保護者の同伴をお願いしていますが、今年はお母様だけでなく御夫婦そろって参加されるご家族が多いように思われました。

例年と異なり会場を展示室の一角に設けたので色々心配もしましたが、賑やかに制作する子どもたちを、お客様にも温かい目で見守っていただき、職員一同感謝いたしております。

御指導くださいました、もこもこ文庫・もこもこの会の皆様、御協力有難うございました。



等伯コーナー

長谷川等伯展特別講演会

「受け継がれてきたもの」

講師 仲 春洋氏（日本画家・長谷川派画系後裔）

今日は、私の知っている範囲で長谷川家の下絵の流転に絞ってお話をしようと思います。

昭和十三年頃、長谷川を仮に継いでいました母の従兄妹が北白川で西陣織の艶出し工場をやっております。そこに、長谷川の下絵が保管されておりましたが、その工場を閉鎖することになり、私の父がそこへ参りまして下絵を長持から出しました。三〜四十年もそこに入っていたので、鼠の巢も沢山あったようです。取り合えず新聞紙に包んで、一応は仏画、有職、お寺関係などに区分けして、家を持って帰ったんです。とにかく膨大な資料ですから、少々は紙の箱に入れ替えて押し入れに保管しておりました。父も必要に応じてその下絵を出して、仕事の参考にしたりしておりました。それから、いよいよ戦争もはじまり私も兵に出ましたし、下絵も何箇所にも分けて疎開したと聞きました。終戦の頃にやっと家へ持って帰ってきましたが、手付けようとしてもどうも手の付けられない状態でした。二、三年して父も「いっぺん供養せなあかんなあ」ということで、昭和二十七年、八年頃に親戚を集めて、今の長谷川菩提寺で法要をしたことを覚えております。それで、新聞紙に包んだものを紙の箱に入れ替えて整理をしました。

です。まあ写しです。その古い過去帳を見ますと、非常に端正な字で書かれた大きな物で、土居先生にお知らせしたら、「すぐに持ってきてくれ。」といわれて一年程預け、過去帳と系図をすぐに修復いたしました。下絵は、ここ十年前から箱を詰め替えました。この間、七尾美術館の方から調査をさせてほしいということで、ようやく一般の人にも下絵について認識を持って知っていただけではないかと、等伯の（没後）四百年までにはできるだけその大事な資料を整理して、下絵展みたいなものもしたいと考えております。私共には、お色気のある下絵というのは一点もないです。非常に一途にお寺関係の仏画、それから肖像画、絵巻物を代々極めております。緻密な、しかも非常にデッサン力のある下絵です。皆さんのご協力で、いつかは日の当たる場所で見せたいと考えております。

話は飛びますが、幕末江戸の末期、長谷川派の十四代の等栄が十五年程かかって高野山の金堂の壁画を完成したんですが、十三代の等舟が明治四年（一八七二）の七月に亡くなり、その八月には長男の等栄も二十六歳で急死をします。その頃、まだ次男の富次郎が十歳、姉の礼が十五歳、三男の与左吉が七歳だったようです。明治七年、八年頃に廃仏毀釈が始まり、長谷川家も等舟を亡くして大変だったと思います。その内に下絵は姉と弟に任せて、やがて富次郎は京都を離れて江戸へ行つたようです。それから以後の下絵は、今申し上げた長持に入ったままだったというふうな想像されます。その下絵は宗派を問わず混ざっておりまして、宗派別に整理もしなければいけないと思います。

天明の大火によって、天明前のはほぼ焼かれておりますけれども、多少は大火以前の下絵も混ざっているようです。そういうようなことも含めて相談をして、整理をさせていただきたいと考えております。

みなさんには非常に不十分かと思いますが、出来るだけご理解いただいて、この辺で私の話を終わらせていただきます。

長谷川等伯展特別対談

「長谷川派研究と土居先生との思い出」

対談者…仲 春洋氏（日本画家・長谷川派画系後裔）

…嶋崎 丞（石川県七尾美術館館長）

館長…結局、十五代の等舟富次郎さんが高野山で先祖の後を継がれたんですか。

仲氏…いや、廃仏毀釈があったり、小さかったですから、技術的なことを受け継ぐ間もなかったと思います。

館長…富次郎さんの奥様である塚本さわさんは、どういう系統の方ですか。

仲氏…父親が姫路の出で、鉱山の開発の仕事をしていた人です。その時の部下に塚本富次郎が分析の技師としておりまして、結婚させたということなんです。

館長…二人のご長女と、仲市太郎さんとがご結婚された。その時、お父さんの富次郎さんは長谷川という名前を名乗らなかつたんですか。

仲氏…後継ぎですから、仲家を名乗っておりました。

館長…しかし、資料は全部仲家にあるんですね。

仲氏…はい。

館長…そもそも、お父さんの代の仲家というのは、絵を描いておられた家柄なんですか。

仲氏…いえ、仲家というのは、元々丹波から出てきたんです。京都の四条烏丸で旅館をやつてまして、長谷川も四条に近かつたですし、そういう関係でやはり長谷川が来て頼んだこともあつただろうし、交流もあつたということですね。

館長…それでは、絵心は持つておられたんですかね。

仲氏…はつきりと分かりませんが、長谷川のところへ何か職業ということで、弟子入りしたんやと思います。

館長…先生自身が絵の道に入っておられる訳ですが、義務感はお持ちでしたか？

仲氏…いや、とにかく朝起きたら父親が仕事してましたから、隣で絵を描いていました。そやから好きも嫌いななし、五年生くらいの時に家はそういう雪舟

の系統やということだけは聞かされました。

館長..昭和の十三、四年の頃から、土居先生が「等伯信春同人」を調査し、同人ということを推察されました。その時に、仲家が長谷川の系統のお家で、長谷川の資料が色々あるというようなことで、土居先生との接点が始まったと聞いたことがあります。初めてお会いになったのは、いつ頃ですか。

仲氏..昭和十四年に、登内微笑という日本画家と二人で、初めてお越しになりました。

館長..精力的に七尾へ来られるのは、戦後すぐですね。

仲氏..先生も博物館を辞めたり、大学の論文やらで忙しかつたのと違いますか。そやけど、一番力入れはつたのは工芸繊維大学ですな。学生をお寺へ連れて行って現場で講義をするという講義の仕方が、学生に非常に大きなインパクトを与えて、今でもあの時の講義が良かったというのを聞きます。

館長..金沢の玉川図書館には、『七尾町日記』の中の資料を写した写本があります。『七尾町日記』は、明治初めに大火で無くなって、それが実は仲家本の長谷川家系図を写しています。これは確か、江戸の文化年間くらいの写しかと思います。今そちらにお持ちの長谷川家の系譜は、どなたがお作りになったんですか。

仲氏..これは天明に焼けて、忘れないうちということとで、すぐに写して作ったということですね。

館長..それに対して、東京の長谷川家本もありますけれども、長谷川家とのお付き合いはあるんですか。

仲氏..お墓も行きまして、妹さんの方にお目にかかりました。けども、やっぱり資料は関東大震災で大半焼けたということなんです。『長谷川家系図』は、お姉さんのところにあるのと違いますか。

仲氏..両方共がご養子さんですから、今も長谷川を名乗っておられるでしょう。四百年を迎える前に、来年でも妹さんとこへ行ってこようかと思っています。

仲氏..それから、土居先生は下絵だけは手を付けられなかつたですね。とにかく、この間二人で四日間調査に来られて、一箱ようやく見られた訳ですからね。そ

れでも、ええ資料が見つかったとの事ですし、これらなお調査をしていただきたいと思えます。

館長..粉本を作られた方は、どちらかというところと江戸の後期の方が多いいんですか。

仲氏..沢山残っているのは天明の大火以後です。天明以後と言つても、やはり二百五十年にもなりますか。

館長..写しの中身は等伯関係のものが多いんですか。

仲氏..いや、それは写しやなしに、注文ですね。

館長..そうすると、代々の人の粉本、下絵が多いということですね。コピーはほとんどない。

仲氏..中には等叔みために本法寺へ行つて、等伯の『涅槃図』を写す人もおられますが、写すということは大変やからね。多くは仏絵師というような職業ですかね。それが下絵として残つていつてるんです。

館長..土居先生は、戦後頻りに七尾に来られて、講演や調査も精力的にやつておられたわけですね。

仲氏..昭和二十年前後、まだ土居先生はお寺に評判悪かつたですわ。「土居の若いのがいらんこと言うさかいな、うちのお寺さっぱりわやわや。」みたいなことを言つてたらしいですわ。

館長..例えば、狩野派であつたものを等伯とか言つと、けしからんというわけですね。

仲氏..そうですね。今度は等伯様様になつて、えらい変わりようやなあとというようなことも度々ありました。

館長..土居さんは等伯の研究以外にも、角屋の保存の問題、それに二条城の障壁画の問題、京都の大寺の襖絵問題等々について、色んな意味で手広く関係しておられましたから、そういう意味では戦後のやはり桃山から江戸初期に至る文化財の保存管理、修復の問題等には、随分功績があつた方ではないでしょうか。

館長..金沢の日本画家で、郷土史や文化財の研究などもやつておられた山科杏亭さんという方が、妙蓮寺の襖絵について「私が土居先生に、あれは長谷川派ではないかと進言申し上げた。」とおっしゃってました。そして、土居先生が慌てて見にいかれて、すごいものを紹介していただいたということもありました。

館長..先生の蔵書を含めて、文庫みたいなものはあります。また、それは一般公開されてるんですか。

仲氏..三竹園ですね。それは今お嬢さんが管理されておりますし、それは行けば見られますね。

館長..平成十一年「長谷川等伯展」でご講演いただいた武田恒夫先生も、桃山時代の研究という意味でのお弟子さんだったようですね。あの二条城の保存管理の委員を土居先生とご一緒されておりました。

仲氏..土居先生は、二条城と御所と両方受け持つておられました。同業者でも京都は縄張りみたいなもんがあつて、なかなか難しいところですね。

仲氏..土居先生が昭和四十年ですか、アメリカへずっと回つて、最後にイギリスから手紙がきましてね、「ずっと調査して回つたけれども、一番最後に非常に印象深かつたのは、ダ・ヴィンチのマリア像や。」と、要するに下絵ですね。ですから、ヨーロッパを回つて大きい絵に非常に驚いたけれども、やっぱり感銘と印象に残つたというの、こういうダ・ヴィンチの画稿というふうなことを書いて送つてこられたんです。いかに下絵というものが大事で、しかも本紙以上に力があるというふうなことをおっしゃりたかつたんやと思います。

館長..なんか、取り留めない土居先生のお話を申し上げてきましたが、来年がいよいよこの美術館の開館十周年になります。幸い、上野の博物館の国宝「松林図屏風」というものが、ここで展示されることになりました。来年は、大々的に等伯の顕彰を、「松林図屏風」のお里帰りということで、大展覽会を開催したいと思つております。また一つ、皆様方のご協力をお願い申し上げて、今日の講演会を締めくくりたいと思います。どうもありがとうございました。

(※本文は、平成十六年十月二日に行われた「長谷川等伯展」能登時代の仏画と北陸の長谷川派」特別講演会と対談の内容を、当館の責任によつてまとめたものです。)

★耳より情報★

出光美術館(東京)では、三月十二日～四月十七日迄「新発見・長谷川等伯の美」が開催されます。

平成17年度 石川県七尾美術館友の会会員募集のご案内

新年度友の会会員を次の要領で募集いたします。現在会員の方で更新をご希望される方は改めてお申込み下さい。お申込みのない場合はそのまま退会となってしまいますのでご注意下さい。郵便振替による受付もできますので、ぜひご利用下さい。

入会手続きについて

- (1) 年度会費 1,000円
- (2) 受付開始 3月1日(火)
- (3) 受付場所 当館受付カウンターまたは郵便受付【(6)参照】
- (4) 受付時間 午前9時～午後4時30分
- (5) 会員証有効期限 平成17年4月1日～平成18年3月31日
- (6) 郵便による入会手続き

★郵便振替用紙をご利用下さい。(会員証は4月初旬に「石川県七尾美術館だより」とともに郵送します。)

★郵便局備え付けの振替用紙の通信欄に必要事項《会員の区別(更新・新規・元会員)・郵便番号・住所・電話番号・氏名・生年月日》をご記入の上、会費を添えて最寄の郵便局窓口へお出し下さい。

★払込料金70円は申込者負担となります。

郵便振替口座	00710-0-50795
加入者名	石川県七尾美術館友の会

会員になられますと…

- ◆当館での事業(展覧会、講演会、演奏会等)を掲載した「石川県七尾美術館だより」が郵送されます。(年度内4回発行)
- ◆当館主催の展覧会観覧料が団体料金に割引されます。(会員本人と同伴者2名まで)
- ◆「石川県立美術館」「石川県立歴史博物館」「石川県能登島ガラス美術館」「石川県輪島漆芸美術館」でも観覧料が割引となります。(会員本人のみ)

会員様にお知らせ

おかげさまで当館は平成17年で開館10周年を迎えました。友の会会員の皆様に感謝を込めて、新たな特典・優待をお知らせいたします。

ぜひ、平成17年度も友の会にご入会下さい!

- その1 「珠洲市立珠洲焼資料館」など会員証提示で観覧料が割引(会員本人のみ)となる施設が増えます。
- その2 「国宝・松林図屏風～長谷川等伯展～」会期中に友の会会員限定特別鑑賞会を開催。
- その3 開館より平成17年まで継続して会員となつていただいている方にスペシャルプレゼントを進呈。



平成17年度 市民ギャラリー&アートホールの使用申し込みについて

当館では個展、グループ展、演奏会など幅広い芸術活動の発表の場として、市民ギャラリー&アートホールの貸室を行っています。平成17年度のご利用は、1月4日(火)から31日(月)までを第1次募集期間として受付いたします。

ご希望使用期間が重複する場合、上記受付期間終了後に調整させていただきます。

展覧会等の関係上、ご利用いただけない期間もございますので、ご利用可能期間につきましてはお問い合わせいただくか、当館ホームページをご覧ください。

また、ご希望の方には詳細を説明したパンフレット「利用のご案内(展示室図面入り)」をお送りいたしますので、お気軽にお申し付けください。

●市民ギャラリー(全6室+通路)●

- ・ 展示面積(全6室+通路) ……250m²
 - ・ 展示壁面延長(最大) ……137m²
 - ・ 最大天井高 ……3.5m
- ※1室(27m²)から貸室できます。



●アートホール●

- ・ 面積 ……315m²
 - ・ ステージ幅 ……8.5m
 - ・ 客席(固定+可動) ……240席
- ※ピアノ・16ミリ映写機・スライド映写機・OHC等もご利用いただけます。



【お問い合わせ・お申し込み先】

〒926-0855 石川県七尾市小丸山台1丁目1番地
石川県七尾美術館 貸館係 ☎(0767) 53-1500

◎次号・第41号(春号)は4月1日発行予定です。

休館日のお知らせ

- ◆1月 1~3、11、17、24、31
- ◆2月 7、14、21~25、28
- ◆3月 7、14、22、28

交通案内

- 飛行機** ……能登空港より能登有料道路利用約45分
- 車** ……金沢より能登有料道路利用約1時間20分
- タクシー** …JR七尾駅より約5分
- 徒歩** …JR七尾駅より約20分
- 市内循環バス** …JR七尾駅より西回りに(まりん号) 乗車約6分
- ななほコミュニティバス** …JR七尾駅より西口(ぐるっと7セブン) 一スに乗車約10分

